

# 梶田先生と振り返る思い出の一コマ

Vol.7

1966(昭和41)年7月、大字松山に東松山庭球場が完成し、翌年10月に第22回国民体育大会(埼玉国体)の軟式庭球の会場となりました。8面のコートと2千5百人を収容できる庭球場は、当時としては他に類をみない立派なものでした。また、選手団の輸送や宿泊、観光接待など、市民が一致協力してこの大会を支えました。競技は4日間にわたって熱戦が繰り広げられ、観客席は連日超満員でした。

選手団の多くは市民有志の自宅に宿泊し、この縁で選手団と市民の交流が続いたんだよ。



種目別総合優勝は東京！  
埼玉県は僅差で2位だったんだ。



# 埼玉国体開催

1967(昭和42)年



## キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所所長・教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。



## しがほつやまキッズ集合!

## おしえて『文化財』

## すいじんとう「水神塔」

江戸時代、建物のほとんどは木造であり、生活に木材は欠かせないものでした。そのため、江戸では多くの木材を必要とし、近郷の山々から切り出された木材は筏に組まれ、都幾川、越辺川、入間川、荒川を經由し、木場(現東京都江東区)まで水運により運ばれました。途中、いくつかの中継地点があり、都幾川に架かる上唐子月田橋周辺は、川幅が広く、筏の集積地(土場)の一つでした。

その都幾川の左岸、月田橋のもとに水神塔が建てられています。水神塔とは水の神様を祀った石造物や祠の総称です。水神塔側面には「上唐子郡筏連中」と刻まれ、筏連17か村48人の名前がみえます。現在の東松山市域の住人だけではなく、小川町、嵐山町、玉川村(現ときがわ町)と広域にわたっており、筏乗りたちが安全を祈願して合同で建てたものとわかります。年号は刻まれて

いませんが、昭和55(1980)年の調査時に、刻まれた名前が六代前であったことから、文政年間(1820年頃)に建てられたものと推測されています。



月田橋から都幾川を望む



水神塔

問 埋蔵文化財センター  
TEL 27-103333 FAX 27-10334